

本日の学び テーマ:『天の国』を共に テキスト:マタイ13章44節-50節

【理解の手がかりとして】

本課のテキストには「宝」のたとえ(13:44)と「真珠」のいうたとえ(13:45-46)がある。この二つのたとえ話に共通するテーマは「発見する喜び」。これらはく最高に価値あるもの>を発見した時のたとえ話である。「宝」というものは隠されているもの。イエス様は「たとえを用いて語る理由」として次のように言っておられる。「わたしは口を開いてたとえを用い、天地創造の時から隠されていたことを告げる」(13:35)と。これは、神意(神の思い)とか神の奥義(人類救済に関する神のご計画)、あるいは「神の国」の真実が啓き示される、ということ。

イエス様はまた「魚」のたとえ(13:47-50)もなさった。ここには神の審判のイメージが明確に語られている。これを聞いていた聴衆の中には漁師たちもいただろう。12弟子の多くも漁師だった。選別作業は網を引き上げた後の大事な仕事。農業の場合も同じ、収穫した後は、必ず良いものと悪いものを選別する。そのように、人間が永遠の命を得るか否かにも選別がある、と言われている…ように聞こえる。

しかし、ここで考えるべきことは、一体誰が「合格に相応しい正しい者」と確信を持って言うことが出来るだろうか、ということ。私たちは皆、その審判の前で立ちすくむしかないのではないか。

ローマ書の有名な言葉。「正しい者はいない。一人もない。悟る者もなく、神を探し求める者はいない。皆迷い、誰も彼も役に立たない者となった。善を行う者はいない。ただの一人もない。」(ローマ 3:10-12)——パウロはこの言葉を旧約の詩編から引用しているが、まさに如何なる時代も、人間の中にただの一人も「正しい者」は見いだせなかったのである。…ただ、イエス・キリストを除いては。

結論から言うと、イエス様が言われる「正しいもの」とは、唯一の「正しさ(義)」であるイエス様ご自身を受け入れ、その愛のもとに生きる者のこと。いくら罪深くて、イエス・キリストによって示して下さった愛を信じて受け入れる者は、神様の御国に迎え入れてもらえる、これがキリストの福音である。

反対に、キリストの愛などいらない。罪の赦しなどいらない。神など必要ない。救いなどいらない。そう考える人は、自分から、福音に対して壁を造り、神の愛を遮断してしまう。いわば、その状態それがすでに裁きとなっている。ヨハネ福音書ではこう言われている。「御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている」(ヨハネ 3:18)と。

しかし神様の目的は、選別し、「天国(神の御国)」と「地獄」に人間を選別することにあるのではないだろう。神様はすべての、あらゆる人間を救いたい、と願っておられる。使徒パウロは言う。「もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか。だれが神に選ばれた者たちを訴えるでしょう。人を義としてくださるのは神なのです。だれがわたしたちを罪に定めることができます。死んだ方、否、むしろ、復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右に座っていて、わたしたちのために執り成してくさるのです。」(ローマ 8:31-34)

パウロは自分が罪あるものであることを誰よりも知っていた。だから彼の唯一の希望は、自分がその審判の座に立つ時、キリスト・イエスが執り成して下さるということ、その一点であった。これがパウロの信仰であり、そして私達もまたそのように信じている。

「だれがキリストの愛からわたしたちを引き離すことが出来ましょう」…罪深きこの世に、隠されているのは、この愛である。罪人の私たちを潤してくれるこの愛である。私達が発見すべき真の宝はこの「キリストの愛」なのである。

そのような認識をもとに、先の二つのたとえ話を読む時に読み方が大きく変えられる。つまりここまでは、私達が「探し出す者」であり、見つけられる「宝」とか「真珠」は神様の事柄だと思って読んできたかもしれないが、しかし反対にこれを神様(イエス様)を主語にして読んでみて欲しい。

つまり、私達が土の中に隠されている「宝」であり「真珠」なのだという風に。神様は私達を愛して、私達一人一人を宝物として、また高価な真珠として探し出そうとしておられるのではないか。そしてその見つけたもの(私達一人一人)を手に入れる為に、持ち物をすっかり売り払って(すなわち、ご自分の命、イエス様の命を身代わりとして)下さったのである。十字架の福音に照らしてこのたとえを読むと、そのように聞こえて来るのではないか。

私達はそれほどに神様から愛されている。神から離れ、滅びるままに生きるのではなく、キリストの愛という最高に価値あるもの(まことの宝)を手に入れて生きよう求められている。聖書は私たちが何かを発見するために開くものと思われるかもしれない。いいえ、聖書は、神様が「わたし(あなた)」を発見するために啓いて下さる、出会って下さる神の言葉なのである。この「発見された喜び」の中に、私たちの救いがある。

【聖書教育より】

「天の国が私たちの間にあるのは、私とあなたを『宝』『真珠』として見つけ出し、すっかり売り払って買い取ってくださった神がおられるからです。キリストの裁きの座につく日まで、『一人よがりのむさぼり』ではなく、互いを宝や真珠として認め合い、支え合いながら、神に遣わされた畑と海に共に出かけましょう。」(聖書の学び～神の宝、真珠、魚)